

第17回 日本ワクチン学会学術集会を開催して

院長室
だより



学会長
庵原俊昭 院長

院長 庵原 俊昭(第17回日本ワクチン学会学術集会会長)

2013年11月30日、12月1日の両日、津市の三重県総合文化センターで第17回日本ワクチン学会学術集会を開催しました。日本ワクチン学会は17年前、当院の名誉院長であった神谷先生を含めた4人の先生が中心となって設立された学会です。ワクチンを研究する基礎の先生、臨床の先生、疫学の先生、ワクチンを製造・販売するメーカーの方々、ワクチンに関係する行政の方々などが一同に集まり、ワクチンについて総合的に話し合う学会として設立されました。

神谷先生は、「免疫不全者でも免疫状態に応じて生ワクチン接種が可能である」という、当時の定説(今も一部は定説になっている)を破る世界で最初の研究を行った研究グループのリーダーでした。その後も各種ワクチンの臨床開発治験に、また日本や三重県のワクチン行政に関わっておられました。2年前に亡くなりましたが、なくなる直前まで日本のワクチンをどうすれば良いかを考え、多くの研究者に色々な疑問を投げかけておられました。

第17回学術集会を開催するに当たって、学会のテーマを「日本のワクチン:神谷先生の宿題に応える」としました。また、お世話になった三重県小児科医会の先生や三重県の予防接種関係者が参加しやすいように津市で開催しました。事務局長を当院の菅先生が、プロ

グラム委員長を谷口先生が担当し、1年かけて準備しました。

学術集会当日は、今冬最強の寒波が襲来しましたが、天候に恵まれ、730人と多くの方に参加頂きました。学術集会は、冒頭の会長講演「日本のワクチン:神谷先生の宿題」から始めました。特別講演、教育講演には生前の神谷先生と親交が深かった3人の先生にお願いし、3種類のシンポジウムには、当院の長尾先生、菅先生も参加しました。長尾先生が参加したシンポジウム2「ワクチン有害事象の発症メカニズムと報告システム」はひときわ好評でした。また、8題準備した教育セミナーの一つに当院呼吸器内科の丸山先生が、高齢者肺炎の予防ーインフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンの重要性ーについて講演しました。

一般演題は全国から83題と多数集まりました。三重病院、三重県からも、麻酔科の大井先生を始め、鈴鹿市の二井先生、亀山市の落合先生など、5人の先生に発表を頂きました。大井先生の「インフルエンザワクチン後に子どもが麻酔を受けても効果的な抗体反応が得られ、安全に接種できる」という発表は、日本の麻酔科学分野の定説を覆す興味深い発表でした。また、私たちが共同研究している先生からも多数の発表がありました。どうもありがとうございました。

学術集会当日には、多くの三重病院スタッフのお手伝いを頂きました。また、多くの職員の学術集会への参加もありました。学術集会を開き、三重病院には全国レベルの学術集会を開催できるパワーがあることを全国に示しました。これからも、リサーチマインドを持って診療に励んでいきましょう。

三重病院 外来糖尿病教室 1月開催のお知らせ

「糖尿病で怖いのは合併症!!」

途中失明や透析導入の原因のナンバーワンが糖尿病です。しかし、それ以外にも糖尿病の合併症にはさまざまなものがあります。糖尿病合併症を正しく理解し、定期的に検査して、予防しましょう!

日時 平成26年1月29日(水) 14:00~15:00

場所 三重病院 中央棟大会議室
中央棟 2階エレベーターホール前です

担当 医師 荒木里香、検査技師

★ご興味のある方はどなたでも参加できます。予約なし、参加無料ですので当日直接会場にお越しください。

お問い合わせは 059-232-2531 内科外来窓口まで

糖尿病を放っておくとどうなるんだ?

合併症が出てしまうんだ